

【社会・小6・「町人の文化と新しい学問」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手がかりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。調べたことを年表や文などにまとめ、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解している。
- (思・判・表) 歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や年表、その他の資料で調べ、この頃に栄えた町人の文化や新しい学問を生み出した人物の業績を考え、表現している。
- (学 向 力) 主体的に学習問題を追究・解決しようとして、学習してきたことを基に長い歴史を経て築いてきた伝統や文化と今日の自分たちとの生活との関わりを考えようとしている。

ICT活用のポイント

考えの視覚的共有による交流の活性化と思考力の向上を意識した授業

【つかむ】

江戸や大阪のまちや人々の様子に興味をもち、単元の課題をつかむ。

【追究する】

江戸時代に大きな影響を与えた人物を多面的・多角的に考察し、表現する。

【まとめる】

どのような文化や学問が江戸時代に影響を与えたのか、新しい視点や自分とは異なる考えをまとめる。

事例の概要

- 江戸時代に影響を与えた人物についてプレゼンテーションソフトにまとめる。
- プレゼンテーションソフトを全体でファイル共有し、自分の考えをまとめ振り返る。

【事例におけるICT活用の場面①】

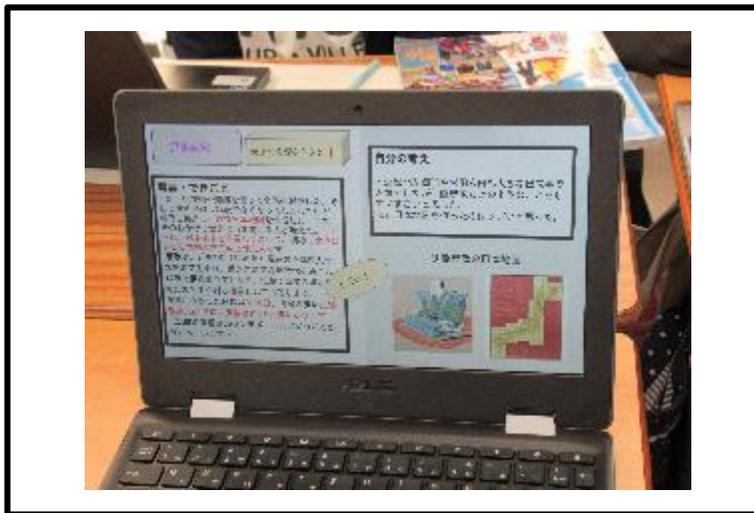
- プレゼンテーションソフトを用いて、江戸時代に影響を与えた人物についてまとめ、共有ファイルに提出する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- プレゼンテーションソフトを共有しながら考えを発表する。それぞれの考えを比較しながら発表を聞き、質問したり感想を述べたりして考えを広げ深める。

【社会・小6・「町人の文化と新しい学問」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



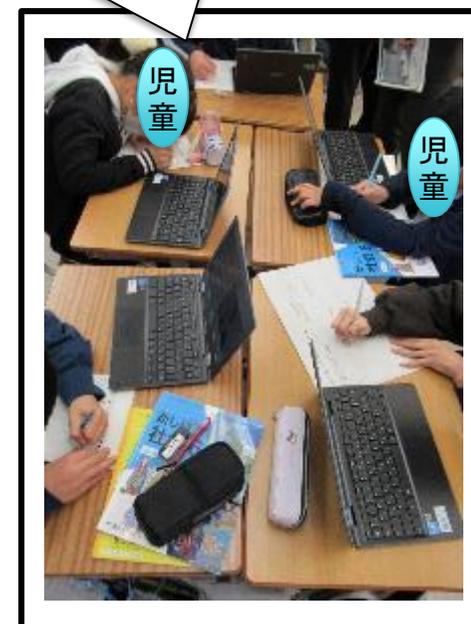
- 江戸時代に影響を与えた人物について考察し、各自で「事実・できごと」「自分の考え」をプレゼンテーションソフトにまとめた。
- プレゼンテーションソフトは各時間毎に作成し、共有ファイルに保存する。
- プレゼンテーションソフトの形式をシンプルにして、入力や作成の負担を小さくした。授業時間で作成できる児童が増えてきた。
- ・端末を家庭に持ち帰り、「事実・できごと」を検索して書き足すなど主体的に家庭学習を進める児童も見られた。

【事例におけるICT活用の場面②】



- 各自の端末で作成したプレゼンテーションソフトを共有した。
- 作成した資料を提示しながら発表し、内容について質問したり感想を述べたりした。手元に資料があるので、より具体的な内容について感想を述べる児童が見られた。
- 資料を何度も見直ししながら、新しい視点や自分と異なる考え方という視点で発表を聞くことができた。

プレゼンテーションソフトを確認しながら、振り返りを記入することができる。



ファイル共有したプレゼンテーションソフトを見ながら、江戸時代に大きな影響を与えたと思う人物をグループで発表する。

【活用したソフトや機能】

- プレゼンテーションソフト
- ファイル共有